

地域・家庭・学校の連携による教育力向上研究大会を開催

7月30日（火）、本巣ふれあいセンターにて「令和6年度 岐阜地区 地域・家庭・学校の連携による教育力向上研究大会」を開催しました。

○講演・グループワーク

演題 「地域と学校の連携・協働 ～子どもを核とした地域づくり～」

講師 一般社団法人ココラボ 代表理事 伊藤 大貴 氏

はじめに、現代社会と子どもを取り巻く環境の変化による価値観が変化している状況から、子どもたちに探求の力が求められることを説明いただきました。さらに、島根県益田市における社会教育の取り組みの事例紹介から人づくりのポイントを学びました。そして、高校時代に地域の支援を受けたことが現在の自身へ影響を与えているという大学生1名による体験の語りがあり、子どもを核とした地域づくりにおいて、「地域の人」として「ナナメの関係」で接することが重要であることの理解を深めました。その後、市町や役職の異なる3人でのワーク活動を通して、熟議の効果や方法について体験的に学びました。



○「岐阜地区の地域学校協働活動について」 岐阜地区社会教育担当

- ・地域学校協働活動推進員等の効果的な配置促進・常駐化・資質向上等を図ること
- ・本巣市地域学校協働活動統括推進員さんとの対話による推進員の活動と意思について、地域のサポーターへの研修会、企業と学校との連携推進、学校の負担軽減への配慮などを紹介



【参観者の感想】

- ・様々な活動を推進させるために、「ななめの存在」の確保、活用が重要であると学びました。地域行事の企画段階から参画することを繰り返して、後にその子達が地域のよい担い手になると思った。
- ・子ども若者を取り巻く環境の変化でそれぞれの価値観が違うという話が印象的だった。ここを理解せずに子どもの力を育むことは難しいと感じた。
- ・学校・地域・家庭の連携を図る工夫、地域の「ななめの関係」の心構え等、多くのアドバイスをいただいた。
- ・地域の方と子どもたちや学校職員が「またね。」の関係づくりをするために、無理のない範囲でできることを模索していきたい。
- ・学校運営協議会でも話題にしていきたい。大事なものは、子どもを中心に据えるということだと思っているので、子どもたちの思いも大切にしながら、みんなで育てていけるように仕組みでいきたい。
- ・学校運営協議会委員として、今後どう学校と地域と繋いでいくとよいか、地域で子どもたちと関わることの必要性など学べた。
- ・本巣市の活動事例の紹介では、対話式で推進員の方の話が聞け、推進員さんの思いがよく伝わり、詳しく知ることができ、参考になった。大変よかった。
- ・学校と地域との連携に関して、互いの良さを理解し合うことで、より活動を推進しやすくなることが理解できた。
- ・学校として、どんなことができるか改めて考えられたことと、自分も地域住民の一人として、子どもたちを育てていく意識が高まり、良かったと思う。
- ・毎朝子どもが登校する時から家に着くまで見守っていただけた地域の方がいらっしゃるからだと、改めて子ども達が、家庭や学校だけでなく、地域に支えていただいていることの理解が深まった。

社会教育委員・公民館関係者等研修会を開催

11月14日（木）、不二羽島文化センターにて「令和6年度岐阜地区 社会教育委員・公民館関係者等研修会」を開催しました。

○講演

演題 「子どもの可能性を引き出す地域の教育力 ～大人や地域に期待されていること～」

講師 岐阜大学地域協学センター助教/岐阜大学地域協学センター員 後藤 誠一 氏

- ・地域の教育力には、様々な捉え方があり、地域、組織、教育力、対象、教育様々考えられる。
- ・体験活動について①「生活・文化体験活動」として、大垣市、島根県海士町、岡山県久米南町や、中高生が商店街の企画・実現に向けての運営を行っている「未来商店街」などの事例の紹介。②「自然体験活動」として、高山市のセカンドスクール事業、③「社会体験活動」として、子どもが街をつくり運営することを通して子ども達が自ら働き考えていくことで、主体性、創造性、協調性を育むことができ、成功した体験が生きる「マーブルタウン事業」の事例を挙げた説明と活動の意義を話された。

○実践発表

テーマ 「北方科」の学習と地域学校協働活動

発表者 北方町教育委員会 社会教育係長 後藤 佳代子 氏
北方町地域学校協働活動推進員 松野 康司 氏



- ・北方町独自の教科「北方科」では学習をさらに深めるため、地域のいろいろな分野で活躍していただける方をアドバイザーとして学ぶ活動が9年間のカリキュラムに組み込まれて実施され、地域協働推進員や教育委員会のコーディネーターがアドバイザーの依頼や内容の調整を行っている。
- ・月末の子どもサミットでの民生委員・児童委員・PTAの方々と共にあいさつ運動、警察の方や交通安全協会の協力での交通安全教室、岐阜農林高等学校生徒による動物ふれあい活動、地域の方とのさつまいもの収穫によるふれあい交流を行っている。
- ・地域の方が充実感ややりがいを感じられ、子ども達が地域に貢献したり地域に居場所を感じたりできるような、地域と子ども達が双方向で取り組める活動を目指している。



【参観者の感想】

- ・地域の教育力とは何かを具体的な例をあげてわかりやすく説明していただけた。
- ・子どもにとって家庭だけでなく、地域での教育力が大切で、改めて体験することの必要性を強く感じた。
- ・地域の教育力は大人が見守り、共に活動しながら支援していくことが大切であることを再認識した。
- ・子どもたちを地域づくりに参画させていく点は今後、県内全体に広がるとよいと感じた。
- ・他の公民館の方のご苦勞を聞くことができたこと、ボランティア（中学生）との関わり方が大変参考になった。
- ・子どものためという一方通行ではなく、大人も楽しみながら一緒になって活動していくことの大切さが分かった。
- ・北方町の発表、とても地域について学ぶことを色々学年に応じて取り組んでみえ、より地域に根付いたことが学べ、大事にされると思う。立派な取組だと感心した。
- ・年齢、学年によって体系的に社会の仕組みを学習できるように9年間の計画があり、大変良い方法だと思う。
- ・学校の教育課程の中の総合と生活科の学習内容に地域学習を系統立てて取り入れ、アドバイザーを的確にコーディネートされた結果、子どもたちから楽しいという声が聞かれる素晴らしい実践だと思う。
- ・いろいろな地域の公民館の館長さんや、立場の違う方からお話を聞くことができ、勉強になった。
- ・地域の公民館として、体験の場を公民館にも多く取り入れる方法を考え、積極的にコーディネートしていく必要性を強く感じた。
- ・他市町の様子が直に聞ける交流は参考になる。多くの意見をお聞きする機会となり、良かった。
- ・経済格差による体感格差が拡大する中、子どもたちにとって公民館はどうあるべきか、何ができるか、課題の一つではないか。